



1894 Visions

その時代 ロートレックと



世紀末パリと日本人画家

日本が国際博覧会へ参加するのは、1873(明治6)年開催のウィーン万国博覧会からです。長く鎖国により文物の交流が閉ざされてきた日本からの出展は、遠く東方への憧れとなってジャポニスム(日本趣味)流行のきっかけとなりました。パリの街は、万国博覧会が開催されるたびに、世界中の産業生産物や文化芸術が交流する国際都市へと変貌を遂げていきました。ジャン＝レオン・ジェロームに師事した岐阜県出身の山本芳翠が、10年におよぶパリでの生活を終えて1887(明治20)年に帰国する頃には、この都市と時代を象徴し続けることとなるエッフェル塔の建設がジャン・ド・マルスで始まっていました。当時、直接海外へ出向き学んだ日本人画家は数えるほどでしたが、その多くは留学先としてフランス、パリを選んでいきます。渡航の仕方は使節随行者や官費、私費留学とまちまちでしたが、この時期の留学生の特徴として、山本芳翠や黒田清輝をはじめ比較的長期にわたり滞在し、画家修行をしていることが挙げられます。背景に

は、受け入れ先となる美術学校や私設アトリエが充実していたこと、また万国博覧会を機に日本美術品を取り扱う林忠正ら美術商によるネットワークや画家仲間、パトロンとなるコレクターの存在がありました。なによりも、若い芸術家にとって19世紀末のパリは、伝統的なサロンと印象派以降の新しい芸術運動が並走し、ロートレックらの手がけたポスターが街を彩るアグレッシブな離れ難き花の都だったのでした。山本芳翠が帰国した頃の日本は、鹿鳴館時代が終わり、西欧一辺倒の政策の反動によりすっかり国粹主義的な傾向に社会全体が傾きはじめていました。そのような状況下、山本らとパリで出会い外光派のラファエル・コランに師事した黒田清輝が1893(明治26)年にフランスから帰国します。1894(明治27)年、山本から生巧館画学校を託された黒田らは、画塾天真道場を開塾しました。これを機に、山本のもとで黒田は大勢の若い画家とともに白馬会を創立し、さらに西洋画科を新設した東京美術学校を拠点に、その後の日本洋画を担うことになっていくのです。

ロートレックとその時代 - 日本編 -

- 1877(明治10) イギリス人建築家ジョサン・コンドル来日する。初代内務卿大久保利通の提案により第1回内閣勲業博覧会(上野公園)開催。洋画家では黒田清輝、五姓田義松、他に高橋由一、山本芳翠、彫刻では高村光雲らが受賞する。この年、西南の役に敗れた西郷隆盛自刃。
- 1878(明治11) 山本芳翠、パリ万国博覧会事務局に雇われ松方正義一行と渡仏、国立美術学校教授だったジャン＝レオン・ジェロームに学ぶ(1887年帰国)。この年、自由民権運動が全国に広がる。
- 1879(明治12) コレラが蔓延する。
- 1880(明治13) 貿易金融機関として横浜正金銀行が開業する。農学研究のため渡仏した合田清が山本芳翠の勧めにより木口木版を学ぶ(1887年帰国)。
- 1881(明治14) 第2回内閣勲業博覧会(上野公園)開催。コンドル設計の展示館は翌年から博物館本館となる。
- 1882(明治15) フランス人風刺画家ジョルジュ・ビゴーが来日する。この年、上野動物園が開園し銀座に電気照明のアーケ灯が設置される。東京大学教授アメリカ人アーネスト・フェノロサが日本の伝統美術の擁護とその復興を唱え、洋画排斥の機運高まる。
- 1883(明治16) 欧化政策を推進する井上馨の尽力によりコンドル設計の鹿鳴館落成。鹿鳴館時代がはじまる(1887年まで)。
- 1884(明治17) 黒田清輝、法律を学ぶため渡仏。後に山本芳翠らに画家修行を勧められラファエル・コランに師事、アカデミー・コラロッシュのコラン教室に入校する(1893年帰国)。
- 1885(明治18) 内閣制度が新設され初代内閣総理大臣は伊藤博文となる。
- 1886(明治19) 久米桂一郎、渡仏(1893年帰国)する。
- 1887(明治20) 欧化主義への非難が高まり、国粹主義が台頭する中、山本芳翠や合田清らフランスから帰国する。
- 1888(明治21) 山本芳翠、生巧館画学校を設立する。この年、松旭斎天一が浅草で西洋奇術を興行し話題となる。
- 1889(明治22) 大日本帝国憲法が公布されたこの年、東京美術学校が開校するが西洋画科は設置されなかった。浅井忠や小山正太郎、山本芳翠ら洋画家による美術団体、明治美術会が創立される。
- 1890(明治23) ラフカディオ・ハーン(のち小泉八雲)が来日する。第3回内閣勲業博覧会(上野公園)開催。小山正太郎による戦争パノラマ画が日本

- パノラマ館(浅草)で大盛況となる。岡倉天心、東京美術学校校長に就任する。衆議院議員総選挙が実施され、第1回帝国議会が開会する。この年、日本のエッフェル塔と呼ばれる渡雲閣(浅草)が完成、話題となる。
- 1891(明治24) ロシア皇太子殺害、大津事件起こる。川上音二郎一座による上演(中村座)、「オペケベー節」流行する。岐阜・愛知にまたがる濃尾地震発生。藤島武二、山本芳翠の生巧館画学校に学ぶ。
- 1892(明治25) 第5回明治美術会展でコロ、クールベ、シスレー等が展示される。
- 1893(明治26) アメリカで開催されたシカゴ万国博覧会に日本から洋画は出品されなかった。久米桂一郎、フランスから帰国する。黒田清輝はシカゴ万国博覧会を見学した後帰国する。
- 1894(明治27) イギリスのヴィクトリア朝で流行したクイーン・アン様式によるコンドル設計の三菱第一号館が竣工する。夏、日清戦争開戦、浅井忠、山本芳翠、黒田清輝、小山正太郎、ビゴーら従軍画家として赴く。この年、山本芳翠は黒田清輝と久米桂一郎に生巧館画学校を譲り、黒田らによって画塾天真道場が開塾される。
- 1895(明治28) 清と日清講和条約を調印(下関条約)。ロシア、ドイツ、フランスから遼東半島返還を要求される(三国干渉)。第4回内閣勲業博覧会(京都)で黒田清輝の清吹作品をめぐる裸体画論争が起こる。明治美術会で旧派と新派の対立が表面化する。
- 1896(明治29) 黒田清輝、久米桂一郎らと白馬会を創立する。東京美術学校絵画科に西洋画科が新設される。
- 1897(明治30) 日清戦争賠償金受け取りを機に金本位制を確立する。岡田三郎助、第1回文部省留学生として渡仏(1902年帰国)。
- 1898(明治31) 明治美術会創立十年記念美術展覧会を開催したこの年、東京美術学校では岡倉天心が校長を辞し、教授橋本雅邦ら17人が辞職する。黒田清輝、久米桂一郎が囑託から教授となる。岡倉天心ら日本美術院を創立する。
- 1899(明治32) 外国人居留地が日本に返還される。
- 1900(明治33) 浅井忠や和田英作をはじめ渡欧し学ぶ画家が増え始める。この年のパリ万国博覧会へは、日本からも黒田清輝をはじめ各分野とも大挙して出品する。夏目漱石はこの万博会場に立ち寄った後、文部省留学生としてイギリスへ留学する(1902年帰国)。文芸誌『明星』創刊。与謝野晶子、歌集『みだれ髪』を刊行。表紙挿画は藤島武二。
- 1901(明治34)



10. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック 《ジャヌ・アヴリル(ジャルダン・ド・パリ)》1893年 三菱一号館美術館蔵
 11. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック 《マルセル・ランゲル(裸像)》1895年 三菱一号館美術館蔵
 12. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック 《シンプソンのチェーン》1896年 三菱一号館美術館蔵

会期中の催し物

美術講座

- 2月14日(日) 15:00-16:00 「両洋の宴 山本芳翠とその時代」 担当: 廣江泰孝(岐阜県美術館学芸員)
 - 2月28日(日) 15:00-16:00 「ルドン、ロートレックの時代」 担当: 松岡未紗(岐阜県美術館学芸員)
- 会場: 岐阜県美術館 講堂
 事前申し込み不要、聴講無料、定員40人

鑑賞会

- 2月19日(金) 19:00-19:30
 - 3月14日(日) 15:00-16:00
- 会場: 岐阜県美術館 展示室3
 事前申し込み不要、要ロートレック展観覧券、定員20人

交通案内

- 公共交通機関ご利用の場合
 - ・JR東海道本線 西岐阜駅 南口から南東へ徒歩(約15分)
 - ・岐阜市コミュニティバス「京岡公園・美術館」下車
 - ・西ぎふ・くるくるバス(1日7便、市橋地区循環) JR西岐阜駅南口から乗車(約5分、復路30分)
 - ・すまいるバス(1日8便、三里・本荘地区循環)
 - ・岐阜バス 岐阜市橋線 JR岐阜駅前[6番乗場]または名鉄岐阜駅前[1番乗場]から「市橋」行きに乗車(約15分)「果美術館」下車
- タクシーご利用の場合
 - ・JR東海道本線岐阜駅または名鉄岐阜駅前から乗車(約10分)
- 自家用車ご利用の場合
 - ・名神高速道路 岐阜羽島ICから東方面へ北進 約10km
 - ・東海北陸自動車道 岐阜各務原ICから国道21号線へ西進 約10km
- 駐車場のご案内
 - 果園會館地上・地下駐車場、美術館・図書館・東・西駐車場、軽自動車駐車場をご利用ください。[無料] ※2月28日までは果園會館工事のため地下駐車場の北側は使用できません。車いすをご利用の場合は、おむいり駐車場をご利用ください。[6台、無料]

